

わたしのまちの郷土本案内
長寿村樋原の研究 古守豊甫氏

全国的にも知られている長寿村、上野原市樋原地区。その長寿村の研究に長年携わった古守豊甫氏の資料が当館には多く保存されています。

昭和13年、代用教員として樋原に赴任した古守氏は、同地区の高齢者が長寿であることに着目しました。その後医師となり、同地区住民の健診をしながら長寿高齢者が多い同地区的研究を続けました。そして穀類などを使用した伝統食が健康長寿につながっていることを突き止め、食と長寿の関係を解明しました。

健康と食生活の因果関係が叫ばれている現代社会において、古守氏が残した長寿関連の資料は、長寿村樋原の歴史とともに永く後世に伝えいかなければならないと考えています。

(上野原市立図書館館長 池田忠利)

上野原市立図書館編



『長寿村・短命化の教訓』樹心社(左)
『長寿村樋原』三瀧社(中)
『長寿村の教えるもの』日常出版(右)



郷土資料
コーナーの
「古守文庫」

図書館ボランティアの日常から

Vol.3 夏休みワークショップ開催

8月11日(日・祝)、図書館協力会主催の「つくってあそぼう なつやすみものづくりワークショップ」を開催しました。2か月前から企画会議をし、準備を重ねて迎えた当日は約200名の来場があり、5つのものづくりブースはどちらも盛況で、イベント運営を通して協力員同士の交流も深まりました。同時開催のカルチャー作品展も手芸品から家具まで多様な作品がずらりと並びました。

ここをこう切ってね…
おりがみのしおりを
制作中。

ミニハガキなどの
完成です!



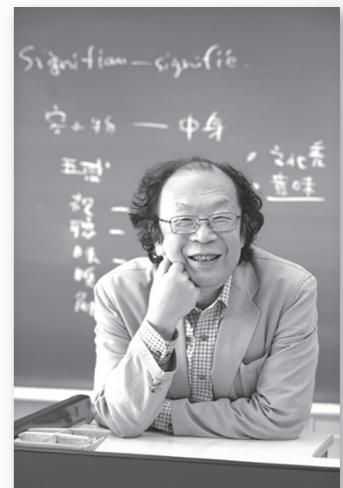
YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
146
2019.10.1 発行

もぐらもちの極まり悪さ

館長コラム

図書館長になって二年目、大過なく過ごせたのは何よりも優秀なスタッフに支えられてきたからだと思うのですが、それでもやはり、「山梨県立図書館長」という肩書は極まりが悪い。身に合うとか、分を知るという言葉がありますが、この仕事と比べて私の経験や力はあまりにも低い。世に読書家と呼ばれる人は無数にいて、市井にも隠れている。そういうことを知ると、図書館長でござい、などと言っていられない。モグラもちのように、狭い世間だけを知って、時々地上に出てびっくりして、慌ててまた自分の隧道に潜っていく、そんな生活が自分には本当は合っているのではないかと、立派な建物に入していくたびに思います。



撮影/タカオカ邦彦

ある一秀穂

Information 2019年度これからのイベント

10月 日 27日 ききみみずきんおはなしの会
秋のおはなしのつどい

生の声で語られる温もり、言葉のリズムの美しさ、こころよさを子どもたちへ伝えたいと発足から30年以上続いているおはなし会。

11月 水 20日 かいぶらり朗読のつどい
県民の日朗読会

山梨放送のアナウンサー数名による、県民の日を記念した朗読会です。ことばのプロの朗読をどうぞお楽しみください。

11月 日 24日 贈りたい本大賞表彰式
なかにし礼氏講演会&
金田一秀穂館長とのトークショー

今年度の表彰式を行い、午後2時からは作詩家・小説家として活躍中のなかにし礼氏と金田一秀穂館長が語り合います。

12月 日 8日 かいぶらり健康フォーラム
がんフォーラム

がん患者・家族によるチャリティ発表会。音楽やパフォーマンスを楽しみながら、がんを考え、がんに負けない社会の構築をめざします。

本と人をつなぐ
第3回 レファレンス

図書館のカウンターには、様々な疑問をもった方が訪れます。図書館の資料を使って、その疑問を解決する手助けをするのがレファレンスです。記憶が曖昧だったり、情報が少なすぎるため、なかなか解決の糸口が見つからないこともあります。そんなときは、利用者と会話をしながら質問を整理し、様々な参考書を調査して本を探します。もやもやしていた質問内容がだいに形になり、相手の求める本が絞り込まれていきます。そして、探していた答えが見つかり、うれしそうに帰る姿を見ることが、レファレンスの醍醐味です。

事業報告ピックアップ//

2019年度上半期

5/5 子どもの日のための腹話術とパペットショー



チチ人形劇や腹話術、パペット合唱団によるコーラスなど、ご家族で楽しんでいただける盛りだくさんの内容でした。お子さまにプレゼントされた手作りパペットを用いてのワークショップでは会場が一体となり、今回のテーマ「笑顔」のあふれる素晴らしいひとときでした。

7/15 中島京子氏講演会 & 金田一館長とのトークショー



来場者からの質問コーナーも盛り上がり、終始和やかな雰囲気でした。

当館2階多目的ホールにて「中島京子氏講演会&金田一館長とのトークショー」を開催しました。「読むことと書くこと」をテーマに、幼少期からの読書体験がその後の作家人生にどのように影響してきたのかについてご講演いただきました。金田一館長とのトークでは、作品の背景などについてお話をいただきました。作家と読者との距離が縮まり、新たな読書の楽しみ方を見出す契機となりました。

7/13 2019 夏休みスタンプラリー ▼ 9/1



幼稚から高校生までを対象に、県内の6つの館のスタンプを集めるとプレゼントがもらえるスタンプラリーが開催されました。当館のプレゼントは金田一館長による手書きのイラストとユーモア溢れるコメントがデザインされたクリアファイル。たくさんの来館者がスタンプを集めました。

7/14 ことばのひろば イギリスチャチャチャ



オックスフォード大学からの留学生2名を講師に迎え、美しいキングスイングリッシュを堪能しながら交流を深めました。「イギリスの地方探訪」では、6つの都市の歴史とともにそれぞれの特徴を味わうことができました。贊美歌から定番に至るまで、幅広い楽曲に合わせてスイングしたり手拍子を打ったりとジャズのサウンドを心ゆくまで堪能しました。

8/25 おんがくかいぶらり デキシーランドジャズ



デキシーランド・オン・マイ・マインドの皆様によるジャズの演奏会が開かれました。アメリカ南部のジャズの歴史とともにそれぞれの特徴を味わうことができました。贊美歌から定番に至るまで、幅広い楽曲に合わせてスイングしたり手拍子を打ったりとジャズのサウンドを心ゆくまで堪能しました。

TOPIC1

テーマ展示の報告

今から始める終活 ～ラストステージの送り方～

2019年5月24日(金)～7月21日(日)



「今から始める終活」展の様子。
たくさんの貸出がありました。

人生100年時代とも言われる昨今、セカンドライフ、サードライフをどう生きるか、そしてラストステージをどう締めくくるかを模索している方も多いようです。

本展示では、定年後の生活や再就職に役立つ本、高齢者の健康・福祉に関する本、改正された相続法や遺言に関する本などを紹介しました。非常に多くの方に本を手にしていただき、関心の高さがうかがえました。より充実した人生を送るヒントを得ていただけたなら幸いです。

やまなし
読書人

県図書TOPICS

美術館や博物館との連携展示も行っています



山梨県立博物館での企画展「すごすぎる！ねこ」に合わせ、当館においても「ねこ、ネコ、猫～吾輩はヒトの隣人であるか～」展を企画しました。博物館の展示の参考文献も見ながら、ネコの生態や人間とのかかわり、人間社会にネコがもたらす問題などについて知ることのできる本や雑誌を選んで展示しました。

TOPIC2 手作り リーディングトラッカー



両端の行が隠れるので、読みたい行に集中できる読書補助具。当館スタッフ手作りです。視覚障害の方の読書サポートに、また難文を集中して読みたい時など、さまざまな場面でお役立てください。幅は、6mmと10mmの2種類です。

幕末維新を駆け抜けた女性

山日YBSグループ創立150周年史編さん室 中村 誠

厳しい字数制限、迫る締め切り。というわけで駆け足でお話しします。今、私たちは山梨の近現代史を記録し続けたメディア人の足跡を調べています。幕末の甲府に内藤萬春という女性がいました。商家に生まれ、ゆえあって吉原遊郭に一度は身をおきましたが、刻苦勉励し国学や和歌を修め、維新後には、女性では珍しい、神道を民衆に広める教導職となり、県内初の女子校も開校しました。その息子が山梨日日新聞を創刊する内藤伝右衛門です。彼女の生涯は謎が多いんです。ところが県立図書館の情報サテライトの展示が萬春に再び光を当てることになりました。「明治維新150年」展で紹介された本をきっかけに新事実が続々と。「甲州文庫」には萬春本人の写真や歌集までありました。さあ皆さん、図書館へぜひ！



情報サテライトのテーマ展示は必見。司書さん労作のリストはいつも座右に。